

第1回松山市総合計画審議会議事録

日時	令和6年4月23日（火）午後3時～午後5時
場所	松山市役所別館6階 第3委員会室
出席者	最終ページ参照

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長あいさつ

野志市長

- 委員の皆様、本日は大変ご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃から、松山市政に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。
- 松山市は、この12年間、第6次総合計画に掲げたまちづくりを進めて参りました。この間、豪雨災害やコロナ禍など、乗り越えた出来事もございました。一方で、土木学会のデザイン賞やアジア都市景観賞、そして全建賞などをいただいた花園町通りのリニューアルであったり、地方球場では初の3度目のプロ野球オールスターゲームの開催、また、道後アート事業や道後温泉別館 飛鳥乃湯泉のオープン、そして間もなく迎える道後温泉本館の全館営業再開など、全国に明るい話題を発信することもできました。
- これからの10年、20年を見据えて策定する第7次松山市総合計画は、コロナ禍を経て、私たちの価値観が多様化し、暮らし方や働き方なども大きく変化するなか、初めて作る計画ということになります。また、グローバル化やデジタル化など、急速に変わっていく時代に対応しながら、ふるさと松山を次代、私たちの子どもや孫の世代にしっかりと引き継いでいくためには、誰もが住み続けられるまち、住み続けたいまち、そして、将来のまちづくりの主役になる若い世代に選ばれるまちを目指す計画であることが求められます。
- 基本構想の素案には、若者からお年寄りまで、幅広い世代からの意見はもちろんのこと、アンケートやワークショップ、そして、タウンミーティングなどで聴き取った、小学生から中学生、高校生、大学生、若手社会人まで、約1万人の若い世代の声や想いを多く反映させています。
- 一人一人の幸せが実現するまちに向かって、年齢や性別、国籍、障がいの有無などに関わらず「人」がつながって、「まち」がつながって、そして、職業や働き方を超えて「仕事」でつながりながら、みんながワクワクする未来を紡ぎ出す。そのような松山を市民の皆さんと一緒に作り上げていくため、委員の皆さまの豊富な知識や経験に基づく、ご意見をいただきますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願いたします。

4. 委員紹介及び事務局職員紹介

5. 会長及び副会長の選出

6. 会長及び副会長挨拶

事務局

- ・ 続きまして、会長及び副会長の選出についてですが、当審議会の会長は、審議会条例第5条第2項の規定により、「会長は、委員の互選により定める」こととしております。どなたか会長のご推薦をいただけないでしょうか。

大石委員

- ・ 松山大学の副学長であり、来年4月に新設される情報学部の初代学部長に任命されるなど、地方創生のカギになるデジタル分野を専門とされている、松山大学の檀先生にお願いしたいと思えます。

事務局

- ・ 大石委員から檀委員をご推薦いただきましたが、よろしいでしょうか。

一同

- ・ 異議なし。

事務局

- ・ それでは檀会長、会長席の方へお願いします。
- ・ 檀会長からご挨拶をいただきます。檀会長、よろしくお願いします。

檀会長

- ・ ご推薦をいただきました、檀でございます。
- ・ 当審議会は、市民と行政のまちづくりの指針となる「総合計画」について審議するため設置されたものであり、今後10年間のまちづくりの方向性を定めるということで、我々の果たすべき責任は、重大であるものと存じます。
- ・ 会長の職責を果たせるよう精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます、簡単ではございますが、就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

一同

(拍手)

事務局

- ・ 続きまして、副会長についてですが、審議会条例第5条第4項に「副会長は、委員のうちから会長が任命する」と規定しております。
- ・ 檀会長から、どなたかご指名をお願いします。

檀会長

- ・ 3月まで愛媛大学副学長を勤められ、日本学術会議会員でいらっしゃいます、堀先生にお願

いしたいと思います。堀先生、よろしいでしょうか。

堀委員

- ・ はい。

事務局長

- ・ それでは堀副会長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いします。

堀委員

- ・ 檀会長からご指名をいただきました愛媛大学の堀です。
- ・ 檀会長をはじめ、それぞれのお立場でご活躍されている委員の皆様のご協力を得て、精一杯努めさせていただきます。よろしくお願いします。

一同

(拍手)

7. 諮問

事務局

- ・ 続きまして、市長から、松山市総合計画審議会の檀会長に対しまして、諮問書をお渡しいたします。
- (諮問書交付)

事務局

- ・ なお、皆さまには、お手元に諮問書の写しを配布させていただいておりますので、ご確認をお願いします。
- ・ それでは、ここから先は、檀会長に進行をお願いします。

檀会長

- ・ それでは、議事を進めます。冒頭に事務局から、会議の公開・非公開についての説明がありましたが、議事に入る前に、これについてお諮りしたいと思います。
- ・ こうした会議ですので、公開が原則だと思いますが、会議を公開することについて、ご異議はありませんでしょうか。

一同

- ・ 異議なし。

檀会長

- ・ ご異議なしと認めますので、今後の審議についても公開といたします。

8. 議事

檀会長

- ・ それでは議事の「松山市総合計画策定方針及び審議会スケジュール」について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

(資料1 松山市総合計画 策定方針 説明)

(資料2 審議会スケジュール 説明)

I. 松山市総合計画策定方針及び審議会スケジュール

檀会長

- ・ 当審議会では、先ほど諮問のありました「資料4 基本構想(素案)」についての議論がメインとなります。
- ・ この件に関しましては、市としての方針や今後の予定ということなので、審議会として、特に検討するものではありませんが、何かご質問等がございましたらお願いします。

一同(質疑・意見なし)

II. 総合計画序論(案)および基本構想(素案)

III. 政策・施策体系(案)

檀会長

- ・ 次に、議事の2点目として、「総合計画の序論(案)」およびさきほど市長より諮問のありました、「基本構想(素案)」、そして、議事の3点目として、「政策・施策体系(案)」について、関連がありますので、一括で事務局の説明を求めます。
- ・ なお、当審議会の中で議論し、答申しなければならない対象は、資料4「基本構想(素案)」です。この基本構想の内容をしっかりとイメージしていただくため、審議対象ではありませんが、序論としての松山市を取り巻く時代の流れや市民からの意見、具体的な取組としての政策・施策体系を事務局に説明してもらいます。

事務局

(資料3 第7次松山市総合計画 序論(案) 説明)

(資料4 第7次松山市総合計画 基本構想(素案) 説明)

(資料5 第7次松山市総合計画 政策・施策体系(案) 説明)

檀会長

- ・ 本日は、時間の関係もございまして、資料3 序論に対するご意見をいただいた上で、資料4 基本構想の2ページ「将来都市像」までを審議いただき、そのあとの3ページ「まちづくりの方向性」以降については、第2回、第3回の審議会で、審議を行いたいと思います。
- ・ また、審議の方法といたしましては、ある程度の部分で区切りながら、順次、検討していきたいと思います。

a) 序論：「はじめに」

(1) 総合計画について

(2) 松山市について

①松山市のあゆみ

堀副会長

- ・ 「夢を描ける」だけでなく、市民1人ひとりの「夢を実現できる」まちを目指すことも大切だと思います。

檀会長

- ・ 夢を描くというのは必要条件で、あくまで「夢を実現」して初めて幸せになれると思います。貴重なご意見をありがとうございます。

竹下委員

- ・ 策定方針の「しなやかな計画」というコンセプトについて、数値目標を検討して、今後社会情勢に合わせて柔軟に変えていくことも可能だという話があったと思いますが、基本構想のどのあたりに具体的な数値目標を入れていくことになるのか教えていただけますか。

伊藤課長

- ・ 今後、基本計画、実施計画を作成する中で、施策に対する KPI を設定していきます。数値目標については、コロナ禍で、第6次総合計画で設定した指標が機能しないということもありましたので、変化の激しい時代にしなやかに対応できるよう、外部の意見をもらいながら、変更できるようにしたいと考えています。

高田委員

- ・ 策定方針の中でメインターゲットが「選びたくなるまち」について記載があり、序論の「目的」にも「選ばれるまち」についての記載がありますが、外から選ばれるという意味も、松山市民が選んで住み続けるという意味もあるかと思います。メインターゲットは若者なのかもしれませんが、誰にとって「選ばれるまち」なのか明確化することで、計画がより立てやすくなるのではないかと思います。

檀会長

- ・ 大学という立場から申し上げますと、18歳人口が高校を卒業した後の進路をどうするかという課題があり、松山以外を選ぶこともあるかと思います。「選ばれるまち」の主体を明確にして落とし込んでいくというご意見をいただきました。地域の活性化や若者はキーポイントになりますし、子育てにも通じますが、人材育成は、非常に重要だと思います。

森協委員

- ・ 1ページ目の三角形の総合計画の構成図について、実施計画を土台に、基本計画、基本構想が積み上がっているように見えます。本来、基本構想があって、それを実現するための基本計画

や実施計画なので、図の見せ方について検討してもよいのではないかと思います。

檀会長

- ・情報の可視化、ビジュアライゼーションについてですね。たしかに三角形だと、下から積み上がっているようにも見えるので、工夫の余地があるかと思います。

大石委員

- ・「目的」の中に、国際的な視点やグローバルな視点があまり感じられませんが、少子高齢化が進む中で選ばれるまちであるためには、外国人労働者から選ばれる必要があると思います。障がいがある方やさまざまな個性を持った外国人との共生という点もこれからの10年間で大きく変わってくると思います。日本国内だけでは経済が活性化されないという点からも、国際的なつながりについて、「目的」に記載があればよいと思いました。

檀会長

- ・コロナ禍を経験して、現在はインバウンド観光客や外国人留学生が多く松山に来ています。インクルーシブ社会の中で、国籍にとらわれない「グローバル」という視点は非常に重要だと思います。

高岡委員

- ・「目的」について、「将来のあるべき姿を描き」という文章で始まっているのですが、松山市がどういった未来を目指していくか、全体を通して強調されることで、イメージしやすくなると思います。「選ばれるまち」や「将来都市像」がその具体的な内容かもしれませんが、具体的なイメージがつかめて、まちとしての魅力が分かる内容が随時出てくると市民としてはイメージしやすいと感じました。
- ・また、「松山市のあゆみ」について、様々な分野の出来事が記載されているので、松山の特色が分かるように、例えば、歴史や文化、俳句、城、道後温泉など、テーマを絞って記載すると、まちの歴史の深さがイメージしやすいのではないかと思います。

檀会長

- ・「松山市のあゆみ」については文化、歴史といった切り口でみると、松山市の魅力が分かりやすくなるという意見をいただきました。また、「目的」については、バックキャストで道筋を描いていきますが、分かりやすく未来を示すことができると良いと思います。

②時代の潮流

松村委員

- ・大学では、まちづくりや都市計画の構想段階で、まずSWOT分析¹をするという話をします。SWOT分析とは、内部環境と外部環境にとってのプラス要因・マイナス要因を整理することで、強み、弱み、機会、脅威を明らかにするフレームワークです。
- ・例えば、18歳人口について話がありましたが、令和10年の県立高校の再編の議論では、高

¹ 強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の頭文字から命名されたフレームワーク

校生の人口は減らないものと想定されています。地方都市で、中心市街地の周辺約1 km圏内で、高校生と大学生の人口が減らないような都市は他になかなかありません。広島や福岡と比較しても、若い人がまちなかに多いというのは松山市の非常に大きな特徴です。そういった特徴をはっきりと捉えたうえで、基本構想でどのような取組が必要か考えるということが重要だと思いますので、「時代の潮流」は、これはこれでできていると思うのですが、SWOT分析で配置し直した方がより分かりやすいのではないかと思います。

- ・例えば、松山市にとって「外部環境」の「プラス要因」である「機会」としては、道後温泉への観光客が多くいますが、それ以外にも中島や興居島などの島しょ部があり、他の都市と差別化できるという点があります。また、「外部環境」の「マイナス要因」である「脅威」に対しては、何らかの対策を打たなければならないことなどがSWOT分析から分かります。
- ・資料3（序論）は、構想ではなく、審議の対象外ということですが、その整理をした上で、基本構想を検討した方が良いのではないかと思います。

檀会長

- ・SWOT分析でマトリクス状に示すことで、文章で分かりにくいところをいかに分かりやすく見せるか、情報の可視化の観点も取り入れたいというご意見でした。

井口委員

- ・観光が専門領域ですので、3ページの「3）グローバル社会への対応」について、1ポツ目と3ポツ目がダイレクトに観光に関わることについてかと思えます。2ポツ目に外国人の働き方についての記載があり、3ポツ目に観光産業に関する記載があって、4ポツ目にもう1度外国人の就労について記載があるので、順序を整理されると良いのではないかと思います。
- ・先ほど大石委員から発言があったように、外国の方が働けるまちづくり、環境づくりという視点は非常に重要で、観光に限った話ではないと思います。
- ・他方、観光について申し上げますと、1ポツ目で、その地域ならではのコンテンツを活かすことが、インバウンドのみならず、地域の観光に資するという点について言及されており、3ポツ目で多様な産業に関わる方が国内外に発信するという流れになりますので、この4点を整理することで、重要なグローバルという視点が見やすくなると思えました。
- ・さらに、まちづくりに関してですが、3ページ目の「1）人口減少・少子高齢化」で、人口減少について言及され、基本的には人口減少のカーブをゆるやかにすることについて記載されていると思います。可能であれば「7）多様な担い手・手法による協働」か「8）ウェルビーイングの実現」あたりで、人口減少対策に取り組むとはいえ、人口を増やすことが難しい時代でもあり、松山市は多様な郊外の地域があるので、人口のゆるやかな減少に合わせた、「柔軟な」、「しなやかな」まちづくりを進めるといった言葉を入れると、様々な地域が多くの可能性を持って、次の取組を検討することにつながるのではないかと思います。

檀会長

- ・グローバル社会の項目について、順番をまとめるべきという点と人口減少に対してどう対策するかということだけでなく、人口が減少することを前提とした方向性が見えてくると良いというご指摘でした。

岩田委員

- ・ 専門が環境ですので「4）持続可能な地球環境の実現」について、地球温暖化への対応策だけではなく、気温が上がることを前提として、どのように対応していくかという、適応策についても言及していただきたいと思います。

村岡委員

- ・ 専門領域がウェルビーイングですので、コメントさせていただければと思います。コロナ禍により、かつての地縁・血縁といったつながりやコミュニティの継続が難しくなった中で、我々や若者も含めて、どうやって新たなコミュニティに参加できるかということがこれからの取組を模索していく中で大きな課題になっていくと思います。そのような中で今回「つながり」というキーワードが出てきたことを嬉しく思っています。
- ・ ポストコロナの中でどうやってつながっていくか考えるにあたって、ソーシャルワークの中で、「ネットワーキング²」や「コーディネーション³」と言ったスキルがありますので、今後の検討の中で、実質的な取組に反映できれば良いと思います。

檀会長

- ・ 「つながる」というキーワードがありますが、コミュニティ形成について、コロナを経てまちづくりにどうかしていくのかという視点は重要だと思います。

佐川委員

- ・ 私は商売をしていますので、「1）人口減少・少子高齢化」について申し上げます。アクティブシニアの活用や生産年齢人口の拡大について言及されていますが、女性活躍推進については触れられていないと思います。女性活躍推進による働き方改革は、少子化にも有効な手立ての1つになると思います。

檀会長

- ・ 女性活躍についても総合計画では踏まえるべきという視点をいただきました。

倉本委員

- ・ 専門ではないのですが、「2）デジタル化の進展」について、最近のAI、自動運転、メタバースなどの最新技術がまちづくりに大きな影響を与えるのではないかと考えています。例えば、自動運転が浸透すれば、車が自動で移動するので、まちの中に駐車場がいらなくなるのではないかと考えていますが、今まちなかには駐車場が多くあります。チャット GPT なども普及してきていますが、社会への相当なインパクトがあると思います。若干言及されている部分もあるのですが、現在、見えている範囲での最新の技術をどう取り入れていくかについて言及した方が良いと思います。

² 社会支援を相互に提供していくことを可能にする地域社会の構造を作り出していくこと。「地域づくり」「まちづくり」とほぼ同義。

³ 認知症や障がいなどによって生活のしづらさに直面しているときに、本人の視点に立って、生活の継続に必要な社会支援を統合的に調整すること。

檀会長

- ・ デジタルテクノロジーをまちづくりにどう取り入れていくか、特に最新技術をどう取り入れていくかによって利便性の高いまちづくりを考えていくことができると思います。
- ・ 数年前に松山市で中核市サミットを開催した際に、全国の市長が集まり、前橋市のスマートシティやDXの取組について議論が盛り上がった記憶があります。最先端の技術を取り入れるという視点も重要だと思います。

③松山市の人口の現状と今後の見通し及び展望

橋本委員

- ・ 直近10年間の人口の現状を表すグラフで、推計値よりも実績値が上回ったという結果について、人口動態上どの属性に、推計と差が出て実績値が上回ったか、お示しいただけないでしょうか。実際に対策をした結果、実績が上がっているということだと思うので、どの対策に効果があったのか、属性を確認することで分かるのではないかと思います。

植田副部長

- ・ ご指摘いただいたとおり、赤色の実績が2020年までは推計値を上回るという結果になっています。コロナ前なので、現在とは少しマインドが違いますが、人口減少対策としては、子育て環境の充実と移住・定住対策に力を入れたことの2点かと思います。
- ・ しかしながら、子育て環境の充実については、どこの市や町も競争するように、同じように取り組んでいますので、これを持って、松山市の実績が上がったということにはならないかと思います。
- ・ 他方、移住・定住については、比較的この当時に地方回帰のマインドが高まっていたこともあり、他都市と比べると移住者が多かったため、その実績がこの赤実線に表れているのではないかと思います。ただし、年齢区分では、若い年齢ではなく、比較的高い年齢の方が多かったため、若い年齢の方の転出については歯止めがかかっていなかったということかと思います。

高田委員

- ・ 人口減少が進むと何が困るかについて、市民と共有することで、より良い松山にするためにはどうしたらいいかということに松山市民の意識が向くのではないかと思います。
- ・ 人口が減少することや危機的な状況であることを日本国民は知っていると思いますが、人口減少が進むと何が困るかについて、例えば「税収が減ることによりインフラ整備ができなくなる」など具体的な事例を明記することで、人口減少対策は喫緊に取り組まなければならない課題だということが市民に認識されると思います。

檀会長

- ・ 人口減少による、税収減少や産業の課題などを分かりやすく記載してはどうかというご意見をいただきました。

④市民のみなさんが描いた理想の松山市

松村委員

- ・ ワークショップで出た意見がどう反映されているか、ルートをお示しいただきたいと思います。「掲載方法、デザインは引き続き検討」ということでしたが、市長がおっしゃられたように、1万人の意見がどうまとめられて、吸い上げられたか、プロセスを見えるようにしないと、1万人の意見が無駄になってしまいます。写真だけで伝えるのではなく、個々の意見がどう吸い上げられてきたのかというシステムと、具体的にまとめた内容を時代の潮流と対応するような形で、お示しいただけると良いのではないかと思います。

檀会長

- ・ 1万人の意見がどう反映されたか、そのプロセスのフォローが必要なのではというご意見をいただきました。

b) 基本構想（素案）

(1) これからのまちづくりについて（将来都市像、まちづくりの理念を含む）

高田委員

- ・ まちづくりの理念の中で「つながる力」という言葉がありますが、あえて「つながる」という言葉にしたのでしょうか。「つながる力」だと、にじみ出して自然につながっていくようなイメージですが、「つなぐ力」だとより強くつながるイメージがあります。

植田副部長

- ・ アンケートやワークショップの中で、人がつながった状態、まちがつながった状態が理想の姿だという意見が多くあったため、「つながる」という状態を表す表現にしています。そのため、将来都市像を含めて「つながる」という言葉にしていますが、行政が行う実行計画の段階では、能動的な「つなぐ」という言葉を使っています。

倉本委員

- ・ まちづくりの理念の「一人ひとりの幸せが、実現するまちへ」について、私たちは幸せになるために生きていると思っており、この通りだと思います。目的の「幸せ」を実現するために、「人」「まち」「仕事」をキーワードにして、具体的な展開を検討しているのだと思いますが、「全体像を示すイメージ図」で、究極の目的である「幸せ」の概念が全体を覆うようにするなどして入れていただいたら、分かりやすくなると思います。全体図に「人」「まち」「仕事」の概念が出てくるのは分かりますが、少し唐突な印象を受けます。「人」「まち」「仕事」の前に普遍的なものとして、個々の幸せは異なるが、究極には「幸せ」のためにまちづくりをするというような見せ方をするのが良いと思います。

檀会長

- ・ 最終的にはデザインされた図が入ると思いますが、「人」「まち」「仕事」の弁図だけだと「一人ひとりの幸せ」が実現するということが見えづらいという意見をいただきました。

倉本委員

- ・ 「まち」「都市」「市」「コミュニティ」という言葉が出てきますが、定義が分かりにくいと感じました。特に「まち」が何を指すか、分かりにくいと感じました。理解しやすいように定義を入れるなどしてもよいのではないかと思います。

竹下委員

- ・ 将来都市像について、「SETOUCHI の交流拠点」というのが、非常に分かりにくいと感じました。海外とのつながりをイメージされているとのことでしたが、かなり説明しないとそれが出てこないという点と、3ページ目以降の「まちづくりの方向性」で、「SETOUCHI の交流拠点」につながる文言がどこに入っているか見えにくい気がしています。「SETOUCHI」ではなくても、「世界（の拠点）」や「海外（の拠点）」など、もっと分かりやすい言葉でもよいのではないかと思います。

檀会長

- ・ もう1度アルファベットで「SETOUCHI」とした想いを聴かせていただけませんか。

伊藤課長

- ・ 瀬戸内海は古くから海外と京をつなぎ、多くの人・物・文化が往来した歴史を持っています。特に来日した欧米人などから多島美と暮らしが織りなす景観などが絶賛されています。松山市でも観光分野を中心に瀬戸内エリアのつながりをいかしたまちづくりを進めており、ニューヨークタイムズでも「日本で唯一行くべき観光地」で第7位に選ばれるなど、現在でも世界ブランドを維持しています。これからの松山市をどうしていくかということを考える上で、労働力人口の減少や市場規模の縮小などを考慮すると、インバウンドや外国人材、留学生の獲得などを考慮していく必要があります。また、第7次総合計画の最終年度は偶然にも瀬戸内海国立公園の100周年を迎える年ということもあり、あえて「SETOUCHI」とアルファベット表記にしています。

大石委員

- ・ 「これからのまちづくりに向けて」で、コロナ禍を受けた変化や、次世代へつなげること、未来につなげる視点について多く記載がありますが、一方で、変わらず良いものを残すという視点も重要だと思います。先人から受け継いだ松山の良さを残して、もっともっと良くしたいという想いでこの総合計画を作っているのではないかと思います。新しくどんどん良いことをやっていきましょうという視点も重要ですが、古くても良いものや過去の人の想いを記載すると、なぜ松山を残したいかということが伝わるのではないかと思います。

檀会長

- ・ どんどん新しいものが入ってくる中で、松山本来の伝統的なものを残しながら、変わるべきところは変わっていくことが大切だと思います。

岩田委員

- ・ 「これからのまちづくりに向けて」について、『坂の上の雲』の記載がなければ、松山市だと分からない表現になっていると思います。インバウンドなどを意識しながら、なぜ温泉やお城などについては触れていないのか教えていただければと思います。

植田副部長

- ・ 「時代の潮流」の中では、観光やまちづくりについて記載があったのですが、「まちづくりに向けて」は、これからのまちづくりに向けた理念を記載した内容であり、結果的に観光などには触れられていない内容となっています。ご指摘いただいた意見もあろうかと思しますので、先人から松山を引き継ぐという意見もいただきましたが、今後答申の中で、そういったご意見をいただきましたら、現在の松山のトピックを入れた文章にすることもできるかと思えます。

檀会長

- ・ 松山市は以前、『坂の上の雲』ではなく、『坊っちゃん』との関係を PR で打ち出していましたか。

伊藤課長

- ・ 現行の第6次総合計画の中でも「夢や理想を抱き、挑戦し続けるまちを目指す」ということを、まちづくりの理念の1つに挙げています。市民の皆さんと知恵を出し合って、地域資源を活かしたまちづくりをこれまでも進めているところですが、小説に書かれた「夢や理想に向けて、ひたむきに努力していくこと」はこれからも引き継いでいくべきことだということで、入れています。

檀会長

- ・ それでは、本日、予定しておりました時間が参りましたので、審議は終了いたします。たくさんのご意見をありがとうございました。本日、審議したことに加え、今後、皆さんからいただくご意見を反映して、最終的に「答申」として、取りまとめたいと考えています。次回も、ご協力いただきますようお願いします。

9. 連絡事項

事務局

(事務局説明)

10. 閉会

以上

第1回松山市総合計画審議会委員名簿 出席者名簿

役職	氏名	所属等
会長	檀 裕也	松山大学 副学長
副会長	堀 利栄	愛媛大学 大学院理工学研究科 教授
委員	井口 梓	愛媛大学 社会共創学部 地域資源マネジメント学科 准教授
委員	岩田 和之	松山大学 経済学部 経済学科 教授
委員	大石 紗己	独立行政法人 国際協力機構 愛媛デスク 国際協力推進員
委員	影浦 紀子	松山東雲女子大学 人文科学部 心理子ども学科 准教授
委員	倉本 逸男	公募
委員	坂谷 安遥	公募
委員	佐川 東輝枝	公益財団法人 えひめ女性財団 理事
委員	高岡 奈々葉	公募
委員	高須賀 大	公募
委員	高田 名奈	株式会社日本政策投資銀行 松山事務所 副調査役
委員	高橋 祐二	松山商工会議所 会頭
委員	竹下 浩子	愛媛大学 教育学部 准教授
委員	武田 孝二	全国農業協同組合連合会 愛媛県本部 副本部長
委員	橋本 俊晴	公募
委員	本田 元広	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団 理事長
委員	松村 暢彦	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授
委員	村岡 則子	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 社会福祉学科 教授
委員	森脇 亮	松山市防災教育推進協議会 会長

(敬称略・五十音順)